

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ みんな選挙に行こう

本市の投票率が下がっています。先の参議院議員通常選挙では48.94%と、県内13市中、最下位から4番目でした。宇部市、山陽小野田市、下関市のベルト地帯といわれる3市の投票率が一様に芳しくなく、今年前半に実施された3市の市長選挙でも同様でした。本市の市長選挙は、合併後3回ありましたが、投票率は平成17年4月が63.58%、平成21年は60.28%と2回とも何とか60%はキープしていたものが、今年は46.13%と大きく落ち込みました。その2か月後の宇部市の市長選挙でも、接戦といわれた割には投票率が伸びず、50%を下回りました。

公職候補者の選挙は、有権者にとって各分野での自分たちの代理人（代表）を選ぶ数少ない貴重な機会です。10月には本市の市議会議員の選挙もあります。

市民のみなさん、「みんな選挙に行こう」。

■ 被災地に職員を派遣しています

7月28日に県北部を襲った豪雨災害による被災地支援のため、本市では、これまでに（8月21日現在）職員約130名を派遣しました。民家の片付け、床下にたまった泥のかき出し等、労務作業が主でしたが、保健師・看護師はチームを組んで避難所等を回りました。その他、給水車、パッカー車も出動しています。この度の市役所職員の協力ぶりには、全く頭の下がる想

いでした。この夏の異常な高温の中で、泥だらけになりながらがんばってくれた数時間。しかし、職員に共通した気持ちは、「3年前の厚狭の水害時に助けてもらったお礼」だったようです。

その他、宮城県にも引き続き職員を派遣しています。県下の東日本3県への長期の派遣状況は、宇部市と山口市が3名ずつ、防府市と本市が2名ずつ、下関市と周南市が1名ずつですが、東日本3県からは、復興支援のため更なる派遣を求めてきています。一方、本市から派遣の2名はいずれも一級建築士で、派遣先でも重宝がられています。本市の事業との関係で調整の必要が出始めています。

■ 「志んはし(厚狭新橋)」が復旧しました

平成22年7月15日の厚狭川の氾濫で多くの家屋が浸水し、たくさんの被害が出ました。国から河川激甚災害の指定を受け、総合的な対策緊急事業が3年経った今も進行中です。その中で、激流に橋脚1本が倒れるなどの被害を受けた「志んはし」は、本市の所有物として、市が架け替え工事に取り組んでいましたが、この度完成し、去る8月26日、開通式を行いました。総事業費3億7,630万円。うち2億2,800万円が国からの補助金です。地下の軟弱層が事前に探知できず、工事費が約5,500万円増額したほか、完成も予定より約5か月遅れ、市民のみなさんにご迷惑をかけてしまいました。報告を兼ねて、お詫びを申し上げます。